



「明朗会」理事を務める今国支和氏、
「一般社団法人 都城市発明協会」副会長を務める吳津學氏と交えての記念撮影

「みんなが助け合い、思いやり、支え合う」
そんな地域社会の実現を目指して——

(特非) 明朗会 ななえ福祉作業所

宮崎県都城市南鷹尾町 18-23

TEL 0986-24-1922

URL : <http://nanae-meirou.or.jp>



奥様
新内 和子



「(特非) 明朗会」理事長
「一般社団法人 宮崎県発明協会」常務理事
「一般社団法人 都城市発明協会」会長
「市青少年発明クラブ」会長
農業委員

新内 友靖

×



ゲスト 島田陽子

平成 13 年、都城市で 2 軒目に設立された障がい者施設「ななえ福祉作業所」の運営を手掛ける「明朗会」。障がいを持つ人々の自立を支えると共に、事業を通して地域農業の底上げや、地域全体の美化にも寄与し、地域との間に温かい信頼関係を築いている。本日はそんな同所を、女優の島田陽子さんが訪れた。

島田 まずは、「ななえ福祉作業所」さんの事業内容からお聞かせ下さい。

新内 当所は、知的、精神、身体を問わず、障がいを持つ方々が自立を目指すための施設です。就労継続支援 B 型として事業を展開しており、作業内容は農業・農産加工がメイン。最近ではごぼうの袋詰めや、焼耐用の薩摩芋植えなどを手掛けました。いただいた報酬は全て利用者様のお給料としていまして、当所の給料平均額は県内でもトップクラスなんです。

島田 新内理事長は、どうしてこのお仕事を始めようと思われたのですか。

新内 私は元々保育園に勤めていたのですが、そちらに通われていた障がいを持つ園児の親御様の「将来が不安だ」という言葉が心に刺さり、忘れられなくなったんですね。それで、何か力になれることはないかと市に相談に何うと、市のほうでも障がい者の福祉施設を増やそうと考えていたところだということで、タイミング良くこの事業を始められることに。そうして、都城で 2 軒目の障がい者施設として、平成 13 年にまずは無認可でスタートしたのです。

島田 滑り出しはいかがでしたか。

新内 最初は戸惑うことも多く、無我夢

中でした。ですが市がバックアップしてくれましたし、近隣の支援学校も色々とお勉強させて下さるなど、周囲の力強い支えがあったお陰で、前向きに歩んでいくことができたのです。また、地域の方々からも初めは反対されることがあったのですが、当所を利用する子どもたちが地域のために公園や神社、道路などの掃除をするうちに、少しずつ受け入れてもらえるようになりました。そうした活動は今も続けており、子どもたちにはそのような経験を通して、地域があるから自分たちがいる、多くの人のお世話になっているということを知ってもらい、感謝の心を芽生えさせたいと思っています。

島田 こちらは、人とのつながりの大切さも教えておられるんですね。

新内 (和) 本人も言っていました、何より主人自身がこれまでたくさんの仲間を支えられてきました。もちろん私やスタッフたちも脳から支えていますし、利用者様にも恵まれ、日々学ばせていた

多くこともたくさんあります。楽しいことばかりではありませんが、そうした人々の存在が原動力になっているからこそ、前を見続けられているのでしょう。

島田 それでは最後に、今後の展望を。
新内 今もまだ、私を突き動かした保護者の「将来が不安だ」という言葉が耳から離れません。確かに、親はいつまでも子どもの傍にいられるわけではありませんので、今後はグループホームのような施設をつくることで、たとえ家族が誰もいなくなったとしても安心して生活できる環境を築きたいですね。当所のような施設が少しずつ増えてきたことで社会に進出する障がい者の方々が増えているように感じますし、これまでは施設での作業を通して身体や病気の症状が改善したという方もいらっしゃいました。私たちの取り組みが、皆様の身体や心、そして社会に良い影響を与えると信じて、今後も力を尽くしていきたいです。

新内 (和) 私も同じ気持ちで、利用者様がここで家庭的な空気を味わい、思いやりや優しさを育むことで社会に溶け込んでいっていただけたら嬉しいです。

島田 本日は、ありがとうございました。

(取材 / 2014 年 6 月)

After the Interview

「新内理事長の「子どもたち」という言葉からは、まるで本当の親であるかのような深い愛情を感じました。実は、理事長ご自身が交通事故による半身不随を経験されているそうですが、そうした苦境を経てもなお人のために尽くしたいと邁進される姿には感銘を受けました。これからは皆様と力を合わせて、地域の障がい者の方々の生活を支え続けて下さい」 島田陽子・談